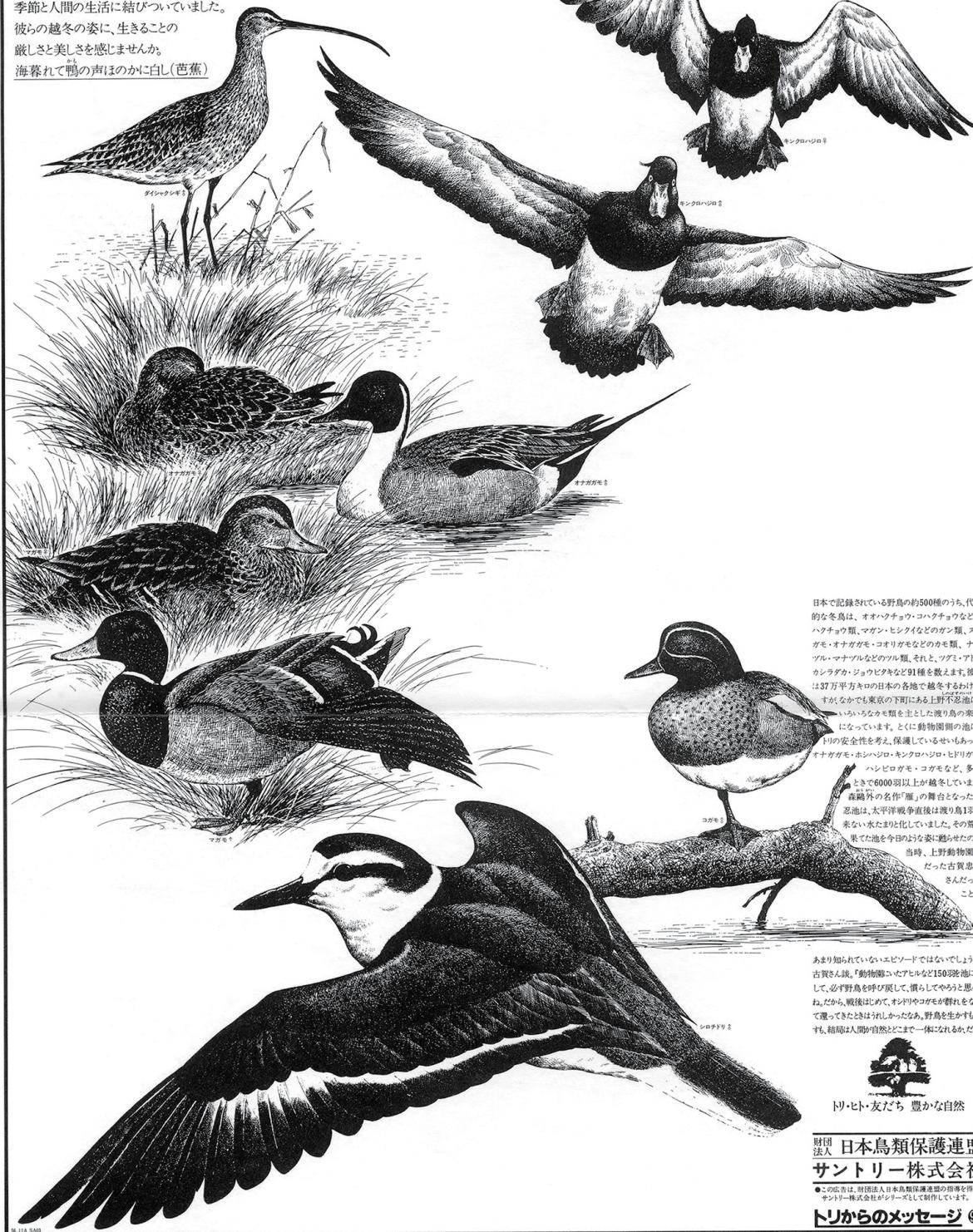


かえ
あ。トリたちが還ってきた…

ことしも、たくさん渡り鳥が、はるばる海を越えてやってきました。
冬鳥——日本より北の、シベリアやアラスカなどで卵をうみ、ヒナを育て、
秋になると日本へきて冬をすこし、春にはまた北へ帰るいたちです。
「渡り」については、まだわからぬノゾの部分が多いのですが、
渡りは、自然のすばらしさを私たちに教えてくれるものひとつであり、
季節と人間の生活に結びついていました。
彼らの越冬の姿に、生きることの
厳しさと美しさを感じませんか。
海暮れて鴨の声ほのかに白し(芭蕉)



日本で記録されている魚の冬島の約50種類のうち、海鳥は約20種類である。オオシカクモウ・コツカクモウなどのハクジラ類、マガ・ヒシタなどの類、スズメガ・ナガハコ・コロサギなどのカモ類、ベニズレ・マツナガリなどのツノリ類、それと、アフ・アリ・シラカバ・シカ・ユビキビなど91種を数えます。これは37万平方キロの日本本土で観察するだけで、すがになかでも東京の下町にある上野不忍池で、いろいろな鳥を主とした渡り鳥の楽園となっています。特に動物園側の堤は、トリの安全性を確保、保護しているせいで、オナガガ・ホシキジロ・キツハコ・ヒトリギ等、オナガガ・ホシキジロ・キツハコ・ヒトリギ等、ハシビロガモ・コモチなどを、多いときで6000羽以上が越えてきます。
森鷗外の名作「鷺」の舞となたな不思池は、太平洋戦争後には、荒鳥と羽鳥を含む水生生物化してしまった。その荒果てで池を今のように姿に蘇らせたことは、當時、動物園長だった古賀忠道さんだったことは

あまり知られていないエピソードではないでしょうか。古賀さん談。「動物園ひいたるひなど150羽飛池に放して、必ず野鳥を呼び戻して、慣らしてやうと思ってね。だから、戦後はじめて、オシドリやコガモが群れをなして戻ってきたときはうれしかったなあ。野鳥を生かすも殺すも、自分自身も利用するからいいんだわ。わからぬがな。



トリ・ヒト・友だち 豊かな自然

財團
法人 日本鳥類保護連盟
サントリー株式会社

●この広告は、財団法人日本鳥類保護連盟の指導を得て、

サントリー株式会社がシリーズとして制作しています。